

高校生を対象とした公開授業科目（第2学期） 及び体験授業シラバス - 平成25年度版 -



「シラバス」とは・・・

各授業科目の詳細な授業計画のことです。一般に、授業名、担当教員名、講義目的、各回ごとの授業内容などが記されており、学生が各授業科目の準備学習等を進めるための基本となるものです。大学ではよく使用される言葉ですので、覚えておきましょう。

【お問い合わせ】

香川県教育委員会 高校教育課 教育指導グループ

〒760-8582 高松市天神前6-1

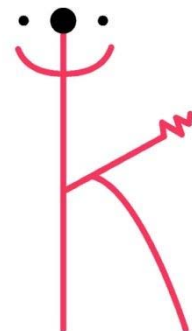
TEL 087-832-3750、FAX 087-806-0232

香川大学教育・学生支援室学務グループ

〒760-8521 高松市幸町1-1

TEL 087-832-1147、FAX 087-832-1155

（注）授業内容に関するお問い合わせは香川大学まで。



【公開授業科目(第2学期)】

授業科目名	教養/専門(注1)	担当教員	期間(注2)	曜日	時間	頁
希少糖と環境	教養教育	高田・森本 (農学部)	10月3日～1月30日 (計15回)	木	16:20～17:50	1
民法概論(夜間主コース)	教養教育	村田 大樹 (法学部)	12月3日～2月13日 (1日2回、計15回)	火	18:00～19:30 19:40～21:10	2
戦後の日本経済(夜間主コース)	教養教育	岡田 徹太郎 (経済学部)	12月2日～2月10日 (1日2回、計15回)	月	18:00～19:30 19:40～21:10	3
哲学入門(夜間主コース)	教養教育	佐藤 慶太 〔大学教育 開発センター〕	10月8日～11月26日 (1日2回、計15回)	火	18:00～19:30 19:40～21:10	4
生命と環境(夜間主コース)	教養教育	増田・守屋・掛川 (工学部)	12月5日～2月6日 (1日2回、計15回)	木	18:00～19:30 19:40～21:10	5
物理学概論Ⅱ	専門教育	磯田 誠 (教育学部)	10月7日～2月3日 (計15回)	月	16:20～17:50	6
日本近代文学史	専門教育	渡邊 史郎 (教育学部)	10月8日～2月4日 (計15回)	火	16:20～17:50	7
福祉住環境論	専門教育	妹尾 理子 (教育学部)	10月3日～1月30日 (計15回)	木	16:20～17:50	8
政治思想	専門教育	金子 太郎 (法学部)	10月4日～1月31日 (計15回)	金	16:20～17:50	9
人間論	専門教育	齊藤 和也 (経済学部)	10月4日～1月31日 (計15回)	金	16:20～17:50	10
経済学入門A(夜間主コース)	専門教育	天谷 研一 (経済学部)	10月4日～11月29日 (1日2回、計15回)	金	18:00～19:30 19:40～21:10	11
経済学入門B(夜間主コース)	専門教育	横山 佳充 (経済学部)	12月6日～2月7日 (1日2回、計15回)	金	18:00～19:30 19:40～21:10	12
現代企業論(夜間主コース)	専門教育	島西 智輝 (経済学部)	12月5日～2月6日 (1日2回、計15回)	木	18:00～19:30 19:40～21:10	13

(注1) 香川大学の教育は、特定の専門分野に限定されない幅広い知識・能力を養う「**教養教育(全学共通科目)**」と、専門職業人を養成するための「**専門教育(学部開設科目)**」と、から成ります。

1年次の間は教養教育を中心に、2年次以降は専門教育を中心に学びます。

(注2) 授業スケジュール編成の都合上、一部の授業においては、通常とは異なる曜日に開講したり、休講になったりすることがあります。

詳細は、20～21頁の「平成25年度行事予定表」をご参照ください。

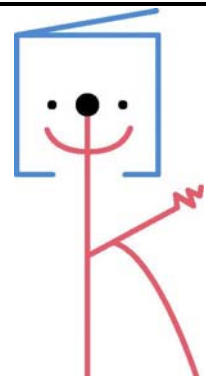
(昼間と夜間主コースで授業スケジュールが異なります。お間違えのないようにお願いします。)

【体験授業】

講座名	開設学部等	期間	曜日	時間	頁
教育について考える ～自分の可能性を拓くために～	教育学部	8月8日	木	9:00～12:00	14
科学・技術の面白さを体験しよう	工学部	7月24日(水) ～7月26日(金)	—	午前の部:10:00～13:00 午後の部:14:00～17:00	15
サイエンスアドベンチャー講座2013 “身の回りの酵素に触れてみよう”	農学部	8月8日	木	10:30～12:00 (研究室体験等 13:00～16:00)	19

**大学の授業には、いろんな「気づき」があるよ。
その「気づき」を高校に持ち帰ってみよう。
高校の授業の見方も変わってくるはず！**

大学生との交流も良い刺激になるよ！



授業科目名 希少糖と環境 Rare Sugar and Environment	時間割 10月3日(木)～ 1月30日(木)
担当教員名 高田 悟郎, 森本 兼司 (農学部、希少糖研究センター)	毎週木曜日 16時20分～17時50分 (計15回) 初回はガイダンスを行いますので、開始20分前に研究交流棟1階(22ページ参照)にお越しください。
学習時間 講義90分×15回+自学自習	
授業の概要 2名の担当教員が、それぞれ以下の内容を講義する。 (第1部：森本) 日本は降水量が多く平地の少ない地形を持つため、元来水資源に恵まれた国であるといえる。しかし、高度成長期の代償から水質汚染が深刻となり、安全な水に対する消費者の関心が高まってきている。本講義では、私たちの生活に欠かせない水について、いくつかのテーマを取り上げながら理解を深めていく。 (第2部：高田) 日本は環境先進国であり、天然資源に恵まれない国であるが故の、再資源化技術を開発してきた。近い将来、日本は資源大国になるともいわれるほどである。本講義では、農産廃棄物やバイオマス資源の有効利用技術について、いくつかのテーマを取り上げながら資源とエネルギー問題、食糧問題とのかかわりについて考えていく。 (第3部：高田・森本) 香川大学が誇る希少糖の生産技術も水や再資源化技術と深くかかわっている。本講義では、環境問題から見た希少糖の生産技術を紹介し今後の課題について考えていく。	
授業の目的 水や環境に関する様々な問題や課題について、身近な事柄として認識する。また、これら問題を克服しつつものづくりの技術を発展させる必要があるという課題を、客観的に考察することができるセンスを身につける。	
到達目標	
1. 水の重要性についての知識を共有できる。 2. 環境に関する問題を、客観的・多面的に判断し評価できる。 3. 未利用資源の有効利用技術についての知識を共有できる。 4. 環境に配慮した希少糖の生産技術を通して日本のものづくりの技術を評価できる。	
授業計画並びに授業及び学習の方法	
[授業の方法] 講義形式とし、主に液晶プロジェクターまたはプリントを使用する。 [授業計画] 第1週 ガイダンス、授業概要など(森本) 第2週 生命と水(森本) 第3週 おいしい水と健康に良い水(森本) 第4週 水の構造と性質(森本) 第5週 自然による機能水(森本) 第6週 人工的な機能水(森本) 第7週 日本の環境技術(高田) 第8週 排水処理技術(高田) 第9週 廃棄物の利用技術(高田) 第10週 廃棄物の再資源化技術(高田) 第11週 バイオエタノール(高田) 第12週 希少糖と再資源化技術(高田) 第13週 希少糖と排水処理技術(高田) 第14週 希少糖と水(森本) 第15週 希少糖と酵素(森本) 第16週 期末試験 [自学自習に関するアドバイス] 第2～6週 水資源について基礎的な本で学習する。 第7～11週 各自興味を持っている環境や食糧問題を再資源化技術に重ねて学習する。 第12～15週 希少糖の生産技術についてインターネットなどで学習する。	
教科書・参考書等 教科書は、指定しない。参考書は、「水を科学する」川瀬義矩著(東京電機大学出版 税込1995円) その他講義の初めに紹介する。	
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 初回の授業時に履修等に関する説明・注意を行います。	

授業科目名 民法概論（夜間主コース） Civil Law	時間割 12月3日（火）～ 2月13日（木） 毎週火曜日 18時00分～19時30分、 19時40分～21時10分 （1日2回、計15回） 初回はガイダンスを行いますので、開始20分前に研究交流棟1階（22ページ参照）にお越しください。
担当教員名 村田 大樹（法学部）	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習	
授業の概要 民法とは、財産、取引、事故、結婚、相続などに関連する、人間社会の基本的な仕組みである。この講義では、民法の概要について時代の推移を踏まえて説明し、現代における問題点を考える。	
授業の目的 民法という基本的な法律について、その内容や構造を知ること。	
到達目標	
民法がどのような法律か（例えば刑法との違いを）説明できる。 得られた知識を用いて、簡単な民事紛争に法的な解決策を示すことができる。	
授業計画並びに授業及び学習の方法	
毎回ごとにレジュメを配布し、それをもとに講義を行う。特定の教科書は使用しない。	
<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 契約という制度 3 契約の拘束力 4 契約自由の原則の修正 5 所有権 6 知的財産権 7 金銭の支払い 8 担保 9 不法行為 10 不法行為 11 夫婦 12 親子 13 相続 14 遺言 15 まとめ <p>【自学自習に関するアドバイス】 初回に指示する参考文献等を読んで、予習復習に充てること。</p>	
教科書・参考書等 最新版（平成25年度版）の六法を持参すること。種類は問わないが、標準的なものとしては、『ポケット六法』（有斐閣）『デイリー六法』（三省堂）など。よりコンパクトなものとしては『セレクト六法』（岩波書店）『法学六法』（信山社）などがある。 その他の参考書等については初回の講義時に紹介する。	
履修上の注意・担当教員からのメッセージ	

授業科目名 戦後の日本経済（夜間主コース） Japanese Economy after WW II	時間割 12月2日（月）～ 2月10日（月） 毎週月曜日 18時00分～19時30分、 19時40分～21時10分 （1日2回、計15回） 初回はガイダンスを行いますので、開始20分前に研究交流棟1階（22ページ参照）にお越しください。
担当教員名 岡田 徹太郎（経済学部）	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習	
授業の概要 日本経済の現状を理解するためには、そこへ至った歴史・変遷を知ることが重要である。戦後の日本経済はなぜに高い経済成長を成し遂げたのか？ 戦後における国際関係、とくに日米関係は、戦後経済にどのように作用したのだろうか？ その日本経済が、1990年代以降に、なぜ「失われた20年」と呼ばれるほど、低成長（マイナス成長）に落ち込んだのか？ 政府による規制や財政投入はどうあるべきか？ などの問いについて解説する。	
授業の目的 本講義は、戦後日本経済の発展とその変遷について、産業・政府の役割・国際関係など複合的な視点から把握することを目的とし、上述の疑問に対する回答を、学生諸君が、自ら説明できるようになることを目標とする。	
到達目標	
1．戦後の日本経済が高度成長を成し遂げた理由を説明できる。 2．日本経済が石油危機の影響を軽微に乗り越えた経緯を説明できる。 3．バブル経済の膨張と崩壊の過程について説明できる。 4．「失われた20年」からの脱出の方策について提案できる。	
授業計画並びに授業及び学習の方法	
・授業計画 板書筆記・口述筆記による。 (1) イントロダクション (2) 日本経済は今 1 (3) 日本経済は今 2 (4) 敗戦からの復興 1 (5) 敗戦からの復興 2 (6) 飛躍的な高度成長 1 (7) 飛躍的な高度成長 2 (8) 飛躍的な高度成長 3 (9) 経済大国と経済成長のコスト 1 (10) 経済大国と経済成長のコスト 2 (11) 経済大国と経済成長のコスト 3 (12) 「バブル」に翻弄された日本経済 1 (13) 「バブル」に翻弄された日本経済 2 (14) 日本経済の現状と問題点 (15) まとめ ・自学自習に関するアドバイス 講義毎にレポートを課すので、講義後に振り返り、復習し、まとめ・疑問・感想などを取り纏めて提出すること。	
教科書・参考書等 教科書： 指定しない。適宜、講義プリントを配布する。 参考書： 橋本寿朗『戦後の日本経済』岩波新書398，1995年．参考書の購入は任意である。	
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 講義中は静粛に。携帯電話を鳴らした者は、1回につき最終成績から20点減点、私語についての注意を受けた者は1回につき最終成績から10点減点する。	

授業科目名 哲学入門（夜間主コース） Introduction to Philosophy	時間割 10月8日（火）～ 11月26日（火） 毎週火曜日 18時00分～19時30分、 19時40分～21時10分 （1日2回、計15回） 初回はガイダンスを行いますので、開始20分前に研究交流棟1階（22ページ参照）にお越しください。
担当教員名 佐藤 慶太（大学教育開発センター）	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習	
授業の概要 「哲学」とは、通常自明視されていること、「常識」とみなされていることを改めて問う学問です。この授業では、そのような哲学的な考え方の特質を「美の基準はあるか」、「心と事物はどのように関係するか」といった哲学的な問題に即して説明します。授業の後半では、出席者に、取り上げた哲学的問題に関するディスカッションやミニレポートにとりくんでもらいます。	
授業の目的 哲学的な問題について自分の考えを論証できるようになる。	
到達目標	
哲学の問題について、根拠づけのしっかりとした主張をすることができる。 文章を通じて、自分の主張を分かりやすく相手に伝えることができる。	
授業計画並びに授業及び学習の方法	
授業は「講義の時間」と「作業の時間」の二つの部分から構成されます。「講義の時間」では担当教員が過去の哲学者の学説をいくつかを紹介し、その内容（問題設定や論理）について説明します。「作業の時間」では、授業時間内に哲学的な問題にかんするディスカッションやミニレポートに取り組んでもらいます。 (1)-(2)イントロダクション：哲学とはなにか (3)-(4)言語で表現できないものがあるか (5)-(6)美の基準とは何か (7)-(8)「実在的（リアル）」とはどういうことか (9)-(10)心とは何か (11)-(12)善悪の基準は動機か結果か (13)-(14)私は私を知りつくせるか (15)まとめ：私たちにあって哲学とは何か 【自学自習のためのアドバイス】 今回の授業で取り上げる哲学者について、授業時間内に参考資料を配布、ないしは紹介するので、それを次の時間までに読んでください。 また、授業で取り上げるミニレポート、ディスカッションの課題についてもできるだけ事前に告知するので、それについてあらかじめ自分の考えをまとめてくると、授業に取り組みやすいでしょう。	
教科書・参考書等 教科書はありません。授業中にプリントを配布します。 参考書については、授業中に適宜紹介します。	
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 哲学の基礎知識がなくても、受講に支障はありません。 ディスカッションの時間をとるので、積極的な討論への参加を期待します。	

授業科目名 生命と環境（夜間主コース） Life and environment	時間割 12月5日（木）～ 2月6日（木） 毎週木曜日 18時00分～19時30分、 19時40分～21時10分 （1日2回、計15回）
担当教員名 増田 拓朗、守屋 均、掛川 寿夫 （工学部）	初回はガイダンスを行いますので、開始20分前に研究交流棟1階（22ページ参照）にお越しください。
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習	
授業の概要 生物学には、生物の生命現象を扱う生命科学・生理学的側面と、生物の生活を扱う生活科学、生物と環境の関係を扱う生態学的側面とがある。本講義では、以下の内容について解説し、理解を深める。 （1）生命の成り立ち、生命現象と代謝（掛川担当） （2）植物群落の分布と環境の関係、健全な生態系の持続と生物多様性の保全（守屋担当） （3）地球環境問題・都市環境問題と緑（植物群落）の関係（増田担当）	
授業の目的 （1）遺伝子について理解する。生命現象について理解する。 （2）気候要因と植物群落の分布について理解する。生物多様性について理解する。 （3）地球環境問題（温暖化、砂漠化等）および都市環境問題（ヒートアイランド等）について理解する。	
到達目標	
<ul style="list-style-type: none"> ・有性生殖と無性生殖の遺伝的な違いについて説明できる。 ・植物と動物のエネルギー代謝の違いについて説明できる。 ・植生遷移について説明できる。 ・なぜ、生物多様性が重要なのか、その理由を説明できる。 ・地球大気中の二酸化炭素濃度の変化について説明できる。 ・ヒートアイランド現象について説明できる。 	
授業計画並びに授業及び学習の方法	
第1回～第6回担当：掛川 第1回 生命誕生の歴史 第2回 生命の成り立ち 遺伝子の発現と調節（その1） 第3回 生命の成り立ち 遺伝子の発現と調節（その2） 第4回 生命現象と代謝（その1） 第5回 生命現象と代謝（その2） 第6回 細胞について 第7回～第10回担当：守屋 第7回 植物群落と環境1 第8回 植物群落と環境2 第9回 生態系の保全と生物多様性1 第10回 生態系の保全と生物多様性2 第11回～第15回担当：増田 第11回 地球規模の環境問題1 第12回 地球規模の環境問題2 第13回 都市環境問題と緑1 第14回 都市環境問題と緑2 第15回 総括	
教科書・参考書等 特に指定しない。授業ではプリントを配布する。 関連図書については、授業中に随時紹介する。	
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 授業のテーマに関心をもって、自主的に勉学に取り組むこと。 授業中は私語を慎むこと、携帯電話の電源はoffにしておくこと。	

授業科目名 物理学概論 Physics Introduction II	時間割 10月7日(月)～ 2月3日(月)
担当教員名 磯田 誠(教育学部)	毎週月曜日 16時20分～17時50分 (計15回) 初回はガイダンスを行いますので、開始20分前に研究交流棟1階(22ページ参照)にお越しください。
学習時間 講義90分×15回+自学自習	
授業の概要 電気・磁気、音、光、放射線等の物理的性質を概念中心に学習し、小中学校の理科教員に必要な最低限度の概念理解と身の回りの現象との関連の理解を目指す。	
授業の目的 小学校の理科の物理分野を教えることが出来るようになるためには、物理学概論 および の内容は必須である。小学校や中学校の教員として十分な教育が出来るようになるためには、概念的理解のみならず、物理学のもつ体系的な系統的理解無くしては十分ではないが、この授業はそのための第一ステップである。	
到達目標	
1. 入門物理の内容を、少なくとも概念的に説明できる。 2. 小中学校の理科教科書の物理的内容を説明できる。 3. 自然現象を小中学校の物理的内容を駆使して考察できる。	
授業計画並びに授業及び学習の方法	
[授業計画] 第1回：ガイダンスおよび物理学の基礎の準備 第2回：静電気 第3回：電場と電位 第4回：オームの法則とジュール熱 第5回：磁石と磁場 第6回：電流がつくる磁場 第7回：電流にはたらく力 第8回：モーターと発電機、電磁誘導 第9回：電磁波と放射線 第10回：波の性質 第11回：音の性質 第12回：ドップラー効果 第13回：光の進み方 第14回：光の性質 第15回：レンズ	
[自学自習のためのアドバイス] 盛り沢山の内容を含むため、各人が十分な自学自習をすることが必要である。中学校の内容の復習段階から概念理解を中心としてすすめるが、教科書を熟読し、教科書内の演習問題をやることなどでの補足が絶対に必要である。	
教科書・参考書等 教科書：「大学新入生のための物理入門」廣岡秀明著 共立出版	
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 小中学校教員として最低限必要な概念的理解を目指しますが、理科が専門の教員としては全く不十分です。知識がなく、物理学的思考ができるような鍛錬が必要です。	

授業科目名 日本近代文学史 Lecture on the History of Japanese Modern Literature	時間割 10月8日(火)～ 2月4日(火) 毎週火曜日 16時20分～17時50分 (計15回)
担当教員名 渡邊 史郎(教育学部)	初回はガイダンスを行いますので、開始20分前に研究交流棟1階(22ページ参照)にお越しください。
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習	
授業の概要 明治初期から昭和三〇年代までの近代文学史を概説し、加えて近代文学の作品解釈への指針をしめす。	
授業の目的 学生は、高等学校までの教育によって身に付いた文学作品に対する偏見を相対化し、作品を読むとはいかなることであるのか再考する。そのことによって、文学教育の実効性について考える機会を得る。それが、国語教育、リテラシー教育の出発点の一つとなるのである。 近代文学はいわゆる高校までの「現代文」にあたる。しかしそれを真に読むためには多くの知識と文学的な感覚が必要である。すなわち、訓練がなければ、あるいは訓練があっても 読める とは限らないという点において、古典文学とまったく同様である。どう感じるかは読者の自由などというせりふは、解釈の困難を知らない者の流したデマである。読書とレポートを繰り返すうち、文章を自由に読むのはきわめて困難な行為であり、ほとんどの場合、あらかじめ頭の中にあつた観念を作品に当てはめているだけであることが明らかになるであろう。おそらく、その自覚を通過してはじめて、文学が現実世界と通じた怪しくも豊かな世界として我々の目の前に現れるのである。	
到達目標	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 高等学校『国語便覧』レベルの日本近代文学史の「通説」を確実に身につけることができる。 2. 1の「通説」で重要と見なされている作品を読み作品批評を行うことができる。 3. 作品批評をする際、その文章は、教員によって徹底的に添削されるので、最低限の批評の作法を身につけることができる。(あるいは、単に「文章の訓練を行うことができる。」と認識して頂いてもよい。) 	
授業計画並びに授業及び学習の方法	
基本的に講義形式で行うが、あつかわれる作品についての作品梗概と批評からなるレポートを執筆した上で授業参加することを条件とする。講義期間中は休み無い読書とレポート執筆を体験してもらうことになる。	
<ol style="list-style-type: none"> (1) ガイダンス (2) 日本近代文学思潮史概略 (3) 明治初期 戯作・写実主義(「浮雲」) (4) 明治中期 浪漫主義・擬古典主義(「舞姫」) (5) 「自然主義」1(「蒲団」) (6) 「自然主義」2(「破戒」) (7) 「余裕派・高踏派」(「それから」) (8) 「耽美派」(「痴人の愛」) (9) 「白樺派」(「友情」) (10) 「新現実主義」(「河童」) (11) 「新感覚派」(「雪国」) (12) 「プロレタリア文学」(「蟹工船」) (13) 「戦後派」(「暗い絵」) (14) 「戦後の文学」1(「芽むしり仔撃ち」) (15) 「戦後の文学」2(「箱男」) 	
教科書・参考書等 柄谷行人『日本近代文学の起源』(講談社文芸文庫)*「原本」版、「定本」版どちらでもよい。	
履修上の注意・担当教員からのメッセージ レポートに剽窃を認めた場合は、その時点で授業に出席することを許可しない。	

授業科目名 福祉住環境論 Theory of Housing Environment for Welfare	時間割 10月3日(木)～ 1月30日(木)
担当教員名 妹尾 理子(教育学部)	毎週木曜日 16時20分～17時50分 (計15回) 初回はガイダンスを行いますので、開始20分前に研究交流棟1階(22ページ参照)にお越しください。
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習	
授業の概要 高齢者や障がい者に対する住環境整備に必要な知識や手法を福祉・医療・建築の3つの視点から総合的に学習する。福祉住環境コーディネーター3級レベルの知識・理解を得ることをめざしつつ、これからの福祉住環境の在り方を探る。	
授業の目的 福祉住環境コーディネーター3級レベルの知識・理解を得ることをめざす。 受講者それぞれが、今後の少子高齢社会における住環境を中心とした福祉の在り方への考察を深める。	
到達目標	
福祉住環境コーディネーター3級レベルの知識を身につける。 今後の少子高齢社会における住環境を中心とした福祉の在り方について、自分の考えを説明できる。	
授業計画並びに授業及び学習の方法	
講義を中心に、実習や課題作成、グループワークとその発表など、多様な授業方法を取り入れて授業を進める。 第1回 ガイダンス 第2回 多様なバリアとバリアフリー 第3回 ユニバーサルデザイン 第4回 高齢社会と高齢者の特性 第5回 高齢者の心身の機能と特性 第6回 家庭内事故と安全 第7回 高齢者のための建築計画 第8回 住居製図の基礎 第9回 住居製図の基礎 第10回 これからの高齢者の住まい・住まい方 第11回 「共に住む」暮らし 第12回 「共に住む」暮らし 第13回 福祉住環境コーディネーター 第14回 広がる多様な試み 第15回 試験 < 自学自習に関するアドバイス > 新聞や雑誌の住まいや住環境に関する記事など、日常的に情報を得るように心がけてください。学習をもとに、自分や家族、地域の生活を見つめなおし、何ができるか、多様な発想ができることが求められます。 レポート課題が出ることがあります。	
教科書・参考書等 資料・プリントを配布し、視聴覚資料も適宜使用する。 参考文献：住宅総合研究財団『自分らしく住むためのバリアフリー』(岩波書店)等	
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 課題作成やその発表に積極的に取り組んでください。	

授業科目名 政治思想 Political Thought	時間割 10月4日(金)～ 1月31日(金)
担当教員名 金子 太郎(法学部)	毎週金曜日 16時20分～17時50分 (計15回) 初回はガイダンスを行いますので、開始20分前に研究交流棟1階(22ページ参照)にお越しください。
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (予習は不要。復習としてその回に配布されたプリントをよく読み返して下さい。)	
授業の概要 19世紀から20世紀終わりまでの政治思想、経済思想を扱う。「政治思想」という科目名なのに経済思想も併せて扱うのは、そうしないとこの時代を理解することは不可能だからである。前半は政治思想、後半は経済思想を中心に講義する。 前半の政治思想については、いきなり19世紀から話を始めるのは無理があるので、17世紀から話を始める。17世紀の自由主義の始まりから話を始めて、18世紀の人民主権、19世紀以降の自由民主主義について講義する。 後半は主に経済思想について講義する。資本主義、社会主義、共産主義、帝国主義、ケインズ主義、開発主義、市場主義などについて、最低限の政治史の内容と併せて講義する。	
授業の目的 19世紀から20世紀という時代に様々な「～主義」という思想がどのように生まれ、展開していったかを大まかな政治史とともに理解すること。	
到達目標 19世紀～20世紀の世界史を政治思想、経済思想の観点から大掴みに理解できるようになること。どういう思想が歴史のどういう経緯で生まれ、どう展開して行き、どういう経緯である思想は生き残り、ある思想は消えて行ったかを理解すること。	
授業計画並びに授業及び学習の方法	
プリントを配布し、口述と板書で説明をしながら進める。プリントの量が非常に多くなるが、これは口述と板書だけで講義する場合よりも伝えられる情報量が何倍も多くなるからである。また政治思想の古典や面白い本を読むきっかけにもなって欲しいと思ってやっていることなので、容赦して欲しい。 <ol style="list-style-type: none"> (1) イントロダクション (2) 自由主義(1) ロック (3) 自由主義(2) モンテスキュー (4) 人民主権 ルソー (5) 保守主義 バーク (6) 自由民主主義 コンスタン (7) 「多数の暴政」 トクヴィル (8) 古典的自由主義の完成 J.S.ミル と選挙権の拡大 (9) 資本主義 (10) 社会主義、共産主義；帝国主義 (11) ケインズ主義 (12) 福祉国家 (13) 開発主義 (14) 市場主義 (15) まとめ(比較政治経済体制の視座) <p>【自学自習に関するアドバイス】 予習は必要ありませんが、復習に配布されたプリントをよく読み返して下さい。</p>	
教科書・参考書等 教科書は使用しない。 参考書は福田歓一『政治学史』(東大出版会)、猪木武徳『経済思想』(岩波書店)、ヤーギン・スタニスロー『市場対国家』(日経文庫)	
履修上の注意・担当教員からのメッセージ	

授業科目名 人間論 Theory of Human Nature	時間割 10月4日(金)～ 1月31日(金)
担当教員名 齊藤 和也(経済学部)	毎週金曜日 16時20分～17時50分 (計15回) 初回はガイダンスを行いますので、開始20分前に研究交流棟1階(22ページ参照)にお越しください。
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習	
授業の概要 この講義では、近代資本主義の精神を生みだしたヨーロッパの合理主義的思考の起源と特徴を明らかにする。ヨーロッパ思想を生み出した思想的基盤には、古代ギリシアの合理的思考とキリスト教の宗教思想がある。そこで、まず、ギリシア人の合理的思考について概説すると共に、ギリシア人が非合理的要素をどのように合理的枠組みの中に取り込んでいったのか考察する。次に、キリスト教の母体としての古代ユダヤ教の特質について概説し、そこからキリスト教が成立し、やがてそれがカトリック教会として確立していく次第を明らかにする。さらに、近代的人間観の先駆けとなった宗教改革の精神について概説し、プロテスタンティズムと近代資本主義の精神の関連性について考察する。	
授業の目的 ヨーロッパ思想の合理主義的特徴を理解するために、それを生み出した母体としてのギリシア思想とキリスト教思想の内容の理解を深める。	
到達目標	
1. 古代ギリシア文化とユダヤ・キリスト教文化に親しむ。 2. 哲学的・科学的思考を特徴とするギリシアの合理主義について記述し説明することができる。 3. キリスト教の人間理解について記述し説明することができる。	
授業計画並びに授業及び学習の方法	
I. ヨーロッパ的精神とギリシア的合理主義(第1～7回) 1. ヨーロッパ的精神と合理主義 2. ギリシア人の人間観 3. ギリシアにおける合理主義の成立と展開 II. キリスト教とヨーロッパ (第8～11回) 1. 旧約聖書とユダヤ教 2. キリスト教の成立と展開 3. キリスト教の人間観 III. 近代的人間観の成立(第12～15回) 1. 宗教改革の精神 2. 近代資本主義の合理性	
【授業及び学習の方法】 一方的な知識・情報の提供は避けるために、時々、講義に対する質問や意見を書いてもらい、それに答えるという形で、授業を進めていく。すべての質問に答える時間はないので、内容的に重要な質問に対して、次の時間に回答する。 各回の授業が終わったあとで次回の授業のハンドアウトを配布する。熟読してくると授業内容がよく理解できる。病欠の場合は、教員研究室まで次回のプリントを受け取りにくること。	
教科書・参考書等 ハンドアウトを配布する。	
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 履修上の質問は教室で行うか、メールで行ってください。アドレスは最初の講義でお知らせします。	

授業科目名 経済学入門 A (夜間主コース) Introduction to Economics A	時間割 10月4日(金) ~ 11月29日(金) 毎週金曜日 18時00分~19時30分、 19時40分~21時10分 (1日2回、計15回) 初回はガイダンスを行いますので、開始20分前に研究交流棟1階(22ページ参照)にお越しください。
担当教員名 天谷 研一(経済学部)	学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習
授業の概要 ミクロ経済学の基礎を学習します。 ミクロ経済学とマクロ経済学は経済学で様々な問題を分析する際の最も基本的な考え方です。経済学部で開講される様々な科目が、ミクロ経済学とマクロ経済学を土台にしています。 ミクロ経済学では、経済を構成する個々の経済主体の行動に焦点をあてた分析を行います。すなわち、個々の家計や企業がどのように経済活動にかんする意思決定を行い、これらの経済主体の間にどのような相互関係があるのかを考察します。とりわけ、この相互関係において「市場(マーケット)」が果たす役割を考えます(これに対しマクロ経済学は景気や失業率など国全体の経済に焦点をあてます)。	
授業の目的 市場経済において、個々の企業や家計がどのように経済活動を行うか、また、企業や家計の経済活動にいかなる相互依存関係があり、それが資源配分にどのような影響をもたらすかを、ミクロ経済学的手法により理解する。	
到達目標	
<ul style="list-style-type: none"> ・完全競争市場における価格と数量が需要と供給の均衡によって決定されることを、部分均衡の枠組みを用いて説明できる。 ・ミクロ経済学の観点から、企業の生産活動や消費者行動が市場価格にどのように反応するか説明できる。 ・市場均衡が持つ資源配分のメカニズムを、部分均衡の枠組みを用いて説明できる。 	
授業計画並びに授業及び学習の方法	
<p>授業は主に板書によって行いますが、必要に応じプロジェクトや配布物を用いることもあります。宿題として演習問題を課します。</p> <p>予習は必ずしも必要ではありませんが、毎回復習してわからないことをなくすことと、宿題を解いて理解を深めることが必要となります。</p> <p>また、単に授業内容を学習するのみではなく、ニュースや身の回りの経済問題に関心を持ち、授業内容との関連性を自ら考える姿勢が求められます。</p> <p>授業計画は以下の通りですが、進行状況によっては若干の変更をする可能性があります。</p> <p>第1週 需要と供給 第2週 需要曲線と消費者行動 第3週 費用の構造と供給行動 第4週 市場取引と資源配分 第5週 独占 第6週 ゲーム理論 第7週 市場の失敗</p>	
教科書・参考書等 特定の教科書は指定しないが、下記の書籍等から自分の好みのものを1冊以上選び、講義と並行して精読すること。 伊藤元重 『ミクロ経済学』第2版、日本評論社、2003年 その他は初回授業時に指示します。	
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 1. 授業内容は連続しているので、前回までの内容をしっかり理解していないとついていけなくなります。 2. その他の注意事項は、初回授業時に指示します。	

授業科目名 経済学入門 B (夜間主コース) Introduction to Economics B	時間割 12月6日(金) ~ 2月7日(金) 毎週金曜日 18時00分~19時30分、 19時40分~21時10分 (1日2回、計15回) 初回はガイダンスを行いますので、開始20分前に研究交流棟1階(22ページ参照)にお越しください。
担当教員名 横山 佳充(経済学部)	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習	
授業の概要 基本的に1年次を対象に経済学入門の講義を行います。本来経済学においてはミクロ的視点とマクロ的視点から見た経済学があります。ミクロ的な視点から見た経済学はミクロ経済学といい、個別の経済主体の最適行動や他の経済主体との関係を分析する学問です。一方マクロ面から経済を分析するマクロ経済学は、インフレーション、国内総生産など、一国の経済活動全般を分析します。 もちろん、ミクロ的な視点もマクロ的な視点も大切ではありますが、本講義ではマクロ的な視点に基づいた経済の解説を行います。マクロ的な視点の方が経済ニュースなど周囲にあふれている経済問題に親近性があります。マクロ的な視点を習得することで、ニュースに登場する基本的な用語や考え方を学ぶことが目的です。	
授業の目的 経済ニュースに登場する用語、概念を理解できるようにします。	
到達目標	
簡単な経済用語について理解できるようになる。 簡単な理論的枠組みで経済を解釈できるようになる。	
授業計画並びに授業及び学習の方法	
プロジェクターによる投影や板書などによって授業を行う。 基本的に下記のように進めます。なお、講義予定は諸事情により計画通りいかない可能性があります。 第1章 マクロ経済学とは何だろうか (第1回~第2回) 第2章 マクロ経済活動の主役は誰か (第3回~第4回) 第3章 GDPはどのように決まるか (第5回~第7回) 第4章 財政政策とは何だろうか (第8回~第9回) 第5章 金融政策とは何だろうか (第10回~第11回) 第6章 日本経済はどこへ行くのか (第12回~第13回) 第7章 国際経済はどうなっているか (第14回~第14回) 第8章 マクロ経済学の課題は何か (第15回~第15回)	
教科書・参考書等 教科書は、「図解雑学 マクロ経済学」井堀利宏、ナツメ社(各自で購入すること。) 参考書は、必要に応じて指示する。	
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 私語厳禁、教室の平穩を乱していると判断した場合には退室していただく。	

授業科目名 現代企業論（夜間主コース） Contemporary Business 副題：現代企業の現状と課題を考察する	時間割 12月5日（木）～ 2月6日（木） 毎週木曜日 18時00分～19時30分、 19時40分～21時10分 （1日2回、計15回） 初回はガイダンスを行いますので、開始20分前に研究交流棟1階（22ページ参照）にお越しください。
担当教員名 島西 智輝（経済学部）	学習時間 講義90分×15回+自学自習
授業の概要 現代の社会・経済において、企業は重要な構成要素のひとつであり、企業なしに生活を営むことは非常に困難である。したがって、企業について知ることは、現代の社会・経済を理解するうえで不可欠なことであるといえる。本講義では、企業がどのような仕組みのもとで、どのように経営活動を行っているのかを学習する。また、現代の社会・経済において企業が果たしている役割、さらには企業が今後果たすべき役割についても学習する。	
授業の目的 現代企業に関する現状を多角的に理解する。	
到達目標	
現代企業とその経営の現状や今後の展望について、理論と実態の両面から分析できる。	
授業計画並びに授業及び学習の方法	
配付資料、パワーポイント、映像資料を使用して講義する。 講義期間内で小テストを1回課すとともに、適宜リアクション・ペーパーの提出を求める。 【授業計画】 以下は、進度によって変更することがある。 (1)ガイダンス (2)企業とは何か (3)企業の諸形態 (4)株式会社の形成と構造 (5)株式会社の形成と構造 (6)企業と結合、統合 (7)企業間関係 (8)ビデオ学習・小テスト (9)コーポレート・ガバナンスをめぐる議論 (10)コーポレート・ガバナンスをめぐる議論 (11)日本のコーポレート・ガバナンス (12)欧米諸国のコーポレート・ガバナンス (13)ベンチャー・ビジネスと中小企業 (14)21世紀の企業 (15)講義のまとめ 【自学自習】 2～14回（8回を除く）の各回において自学自習用の問題を提示するので、授業内容の復習と問題演習を行うこと。	
教科書・参考書等 教科書は使用しない。 【参考書】 三戸浩・池内秀己・勝部伸夫『企業論[新版補訂版]』有斐閣、2006年。	
履修上の注意・担当教員からのメッセージ ・私語、遅刻など、講義の進行を妨げる行為はしないこと。 ・欠席時の配付資料は再配付しない。 ・履修者間の公平性を損なう措置は一切講じない。	

講座名	教育について考える～自分の可能性を拓くために～		
担当学部	教育学部	担当教員名	櫻井 佳樹
開講期間	平成 25 年 8 月 8 日 (木)	授業時間	午前 9 時～12 時
受入可能人数	30 名		
授業の目標等	<p>現代の教育のあり方や課題について理解するとともに、教育の奥深さや学ぶ喜びに触れて下さい。今回は、2つの講座を準備しました。実践力を育てる本学部教育の特色に触れていただけるような内容になっています。将来の進路選択に生かしてもらえることを期待しています。</p>		
授業の概要・計画等	<p>内容は高校生の皆さんが興味関心をもってもらえるようにできるだけ身近な話題や実践に関するものを準備しています。実施予定のテーマは、以下の2つであり、それぞれが完結しています。受講希望者には、できるだけ両方の講座を受講することをお勧めします。</p> <p>9:00~10:20 担当：植田和也（教育実践学）「『いのち』について考えよう」 生命の尊さについて、資料や社会で話題になっている問題等を取り上げながら一緒に考えてみましょう。高等学校でも道德教育の多様な実践がされています。高校生の率直な考えをきかせてください。</p> <p>10:40~12:00 担当：櫻井佳樹（教育学）「子どもと教育」 子どものユーモアを中心に、子どもに関わる教育の魅力について考えます。また小学校教諭を目指す「教育領域」の大学生とも交流しながら、未来の自分についてイメージして下さい。</p>		
テキスト・教材・参考書等	各テーマについて、配布資料等を準備します。		
履修上の注意	特にありません。		
高校生へのメッセージ等	<p>大学の講座だからといって、難しいイメージを持たないで下さい。教育に少しでも関心のある高校生の皆さんにはぜひとも受講してほしいと思います。教育学部の魅力をたくさん感じてもらえるような講座にしたいと考えています。なお同日の午後は、教育学部のオープンキャンパスが開催されます。興味のある方は、引き続きそちらへの参加をお勧めします。なお香川大学への申し込み（事前 Web 申し込み、または、当日申し込みも可）が必要となります。</p>		

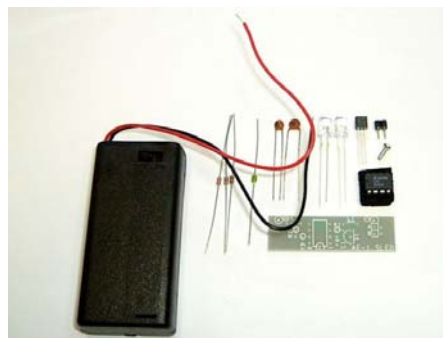
講座名	大学体験授業「科学・技術の面白さを体験しよう」		
開設学部	工学部	講師(代表者)	宮川 勇人
開設期間	7月24日(水) ~7月26日(金)	講義時間	午前の部：10:00~13:00 午後の部：14:00~17:00
実施場所	工学部(林町キャンパス) 1号棟, 2号棟, ものづくり工房	受入可能人数	25名/テーマ
講座の趣旨等	<p>工学部の教育・研究分野に関する内容を高校生の皆さんに知ってもらい、実験を交えた講義を通して工学部の基礎である科学・技術に触れて、その面白さを実感してもらうことを主な目的にしています。(対象とするのは高校2、3年生です。)</p> <p>この講座を受講してもらうことで、高校での数学・物理・化学・生物などの勉強が将来の大学での勉強や研究にどのようにつながるかが、高校生の皆さんにわかり易くなると考えています。</p>		
講座の概要等	<p>この講座で取り上げる内容は、工学部のスタッフが研究している領域と関連しているものです。内容のレベルは高校の物理・化学の進度を想定して考えています。高校生の皆さんが興味を持てるように、実験・観察およびデモンストレーションをなるべく行うようにしています。実施予定のテーマは以下のようなもので、それぞれ午前または午後の部で完結するようになっています。受講希望者は最低2つのテーマを受講することを推奨します。</p> <p><u>1日目(7月24日(水))</u> (午前)「LEDライトの製作」 (午後)「電子回路(FPGA)を使ってストップウォッチとルーレットを作ってみよう」</p> <p><u>2日目(7月25日(木))</u> (午前)「アルミナから宝石を作ってみよう」 (午後)「液晶を使って光を操る」</p> <p><u>3日目(7月26日(金))</u> (午前)「金属を溶かしてアクセサリをつくってみよう」 (午後)「プリズムを作って、光の色を分けてみよう」</p> <p>詳細は別紙を見てください。</p>		
参考書等	<p>筆記用具を用意してください。 各テーマについてこちらで準備した資料を配付します。(参考書は必要なし)</p>		
受講上の注意	<p>特に危険な実験等はないので安心して参加して下さい。また、工学部キャンパスへの途上での交通事故などに注意して工学部へ来て下さい。</p>		
高校生へのメッセージ等	<p>各テーマの講義や説明はなるべく平易に行う予定ですが、質問・疑問があるときは気軽に聞いて下さい。また、実験にも積極的に参加して下さい。実際に体験することで科学・技術の面白さがより深く分かります。</p>		

別紙

1. テーマ名 「LED ライトの製作」

1.1 概要

近年、LED（発光ダイオード）は自動車用ライト、住宅照明、テレビなど様々なところで使用されています。特に、LEDは発光効率が非常によく、省エネに適しているため注目されています。通常、白色LEDを発光させる場合は4V程度の電圧が必要です。ここでは、単3乾電池1本で点灯するよう高周波発振装置と昇圧回路を構築します。ハンダゴテ、ペンチ、ニッパ等を使用し組立てます。



1.2 講義内容

LEDの仕組みの基礎について講義します。

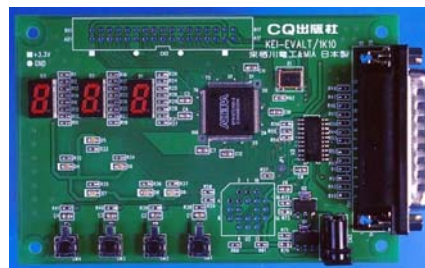
1.3 実験

完成させたLEDライトを点灯させて、その様子を観察します。製作したLEDライトは、持ち帰って頂けます。

2. テーマ名 「電子回路(FPGA)を使ってストップウォッチとルーレットを作ってみよう」

2.1 概要

近年、さまざまな電子機器（例えば携帯電話やテレビ等）において使われている集積電子回路:FPGA（書き換え可能なLSI）を用いて、簡単なストップウォッチとルーレットを作製します。コンピュータなどに使われているデジタル回路の演習にもなります。



2.2 講義内容

デジタル回路の話、2進数の説明をした後に、配布するサンプルプログラムを集積電子回路であるFPGAにデータを転送し、LEDを光らせます。

次に、簡単な例題を解く演習を行った後に、FPGAを用いてストップウォッチ等の作製を行います。

2.3 実験

VHDLと呼ばれるハードウェア記述言語を用いてプログラミングを行い、ストップウォッチとルーレットを作製します。作製したあとで、スイッチを押して動作確認を行います。一人一台の実習ボードを用意しますので、各自のペースで作製できます。

3. テーマ名 「アルミナから宝石を作ってみよう」

3.1 概要

宝石と聞くと、高価で稀少なイメージを持つかもしれませんが、宝石を構成する元素は、金 (Au) や白金 (Pt) のように決して高価な元素からできているものではありません。例えば、ダイヤモンドを構成する元素は、鉛筆の芯と同じ炭素 (C) であることは有名な話です。この授業では、陶磁器などの原料として知られ、身近な材料である白色のアルミナ (Al_2O_3) から、赤紫色のルビーの作製を行います。

3.2 講義内容

まず、アルミナに微量の酸化クロム (Cr_2O_3) を加えると、どうして白色から赤紫のルビーになるかを勉強します。次に、アルミナの粉末が固まりになる焼結という現象について説明するとともに、実際自分の手でルビーの焼結体を作ってみます。

3.3 実験・工作

アルミナ粉末に微量 (0.5~2 重量%) の酸化クロム粉末を加え、乳鉢で混合します。できた混合粉末を、金型成形機を使って直径15ミリの圧粉体に成形します。圧粉体を電気炉に入れて1600 で1時間熱処理をすることにより、ルビーの焼結体を作製します。



4. テーマ名 「液晶を使って光をあやつる」

4.1 概要

水 (液体) を冷やすと固まって氷 (固体・結晶) になります。氷を温めるととけて水に戻ります。液晶は水のような液体と氷のような結晶の中間の性質を示す物質・状態です。液体のように流れますが、結晶のような光の進み方を変える性質があるので、電気で液晶分子を並べかえることによって光をあやつることができます。この性質を利用して、液晶は、テレビや携帯電話のディスプレイに使われています。本講義では、講義と簡単な実験を通して、液晶ディスプレイの仕組みを学びます。

4.2 講義内容

まず、液晶とは何かを説明します。液体のような流れる性質を持つ一方で、結晶のように並んでいる微妙な状態が液晶状態であることを学びます。次に、光が電磁波 (電気や磁気の振動) であることを説明します。液晶の中を光が通る際に、光にどのような変化が起こるかを学びます。さらに、液晶分子をどのようにして並べ替えるのか、また、どのようにして、光をあやつることができるのかをお話しします。身近にある材料には、鉄鋼やコンクリート、シリコン半導体など、固い材料が多く使われていますが、液晶のように柔らかい材料も重要な役割を果たしています。

4.3 実験・工作

液晶ディスプレイとして使われている TN セル (ツイストネマチックセル) をつくります。透明電極基板を接着剤で張り合わせ、偏光板を両面に張り付けます。電極の間に液晶をしみ込ませると出来上がりです。直流電圧をかけてみましょう。どのような変化が起こるでしょうか。

5. テーマ名 「金属を溶かしてアクセサリをつくってみよう」

5.1 概要

この体験授業では、100 程度の熱湯で液相になる合金(U-alloy)を使用します。この U-alloy を溶かして型に流し込んで凝固させ、簡単なアクセサリを作ります。

物質には三つの相(固相・液相・気相)が存在し、相が変化すること(例えば、液相から固相に変化すること)を相変態と呼びます。この相変態が起こる温度は物質によって変化します。液相から固相へ相変態する時の特徴について温度測定結果を元に理解します。

5.2 講義内容

- ・ 鋳型を用いたものづくりについて説明します。
- ・ 物質の三つの相(固相・液相・気相)について復習します。
- ・ 私たちの身の回りにある金属材料について説明し、この講義で使用する U-alloy の特徴を説明します。
- ・ 高機能な材料開発にとって必要不可欠な平衡状態図について説明します。

5.3 実験・工作

U-alloy を小さなピーカーに入れ、ホットプレートの上で 100 以上まで加熱して液相にします。そののち、粘土などで作った型(鋳型)に溶けた U-alloy を流し込み、凝固させることで簡単なアクセサリを作ります。凝固時には温度測定機器(熱電対)を用いて合金の温度測定を行い、得られたデータをグラフにすることで、液相から固相への相変態を理解します。

6. テーマ名 「プリズムを作って、光の色を分けてみよう」

6.1 概要

プリズムは、光の波長(色)によって材質の屈折率が異なるため(分散)、プリズムを出る光の方向は波長によって変わります(分光)。また、光を屈折率の大きい媒質から小さい媒質に入射する場合、境界面を透過する光はなく、入射光は全て反射されます。これを全反射とよびます。この性質を利用して、双眼鏡や一眼レフカメラのファインダーなど、光の進む向きを変えるためにプリズムは用いられます。本講義では、講義と簡単な実験を通して、分光と全反射について学びます。

6.2 講義内容

始めに、光とは何かを説明します。ここでは、目に見える光と見えない光の世界を体感します。次に、光の進路についての幾何光学を説明します。さらに、異なる媒質界面での屈折現象(スネルの法則)を学習し、実験内容の理解を深めます。



6.3 実験・工作

- ・ アクリルプリズムを作製します。
- ・ 太陽光を分光します。
- ・ 全反射実験によるプリズムの屈折率を求めます。

講座名	農学部サイエンスアドベンチャー講座 2013 “身の回りの酵素に触れてみよう”		
開設学部	農学部	講師	亀下 勇 教授
開設期間	8月8日(木)	講義時間	10:30~12:00 講義 13:00~16:00 研究室体験等
実施場所	三木町農学部キャンパス 10:30~ 農学部 DS304 講義室 13:00~ 各研究室等	受入可能人数	25 名
講座の趣旨等	<p>香川大学農学部は、「食糧」、「環境」、「生命」など、21世紀の私たちの豊かな生活を実現するための重要な課題に取り組んでいます。本講座では、香川大学農学部の講義・実習を通じて最新の興味深い科学を体験し、農学部の研究内容への理解を深め、サイエンスにより関心をもってもらうことを目的とします。</p>		
講座の概要等	<p>「農学部」という学部名から、農業とか農作物とかをまず連想するかもしれませんが、実際に農学部では皆さんが想像している以上に幅広い専門分野の研究に取り組んでいます。食品や環境、天然物化学に関する研究、生命科学に関しても微生物から植物から動物に至るまで様々な生物を対象とした分子レベルの研究も行っています。</p> <p>今回は、「身の回りの酵素に触れてみよう」と題して、生物が生命現象を営む上で重要な役割を果たす酵素についての理解を深める講義を行います。私たちが生活している中で、しばしば「酵素」という言葉を耳にすると思います。「酵素」とは触媒機能を持った「タンパク質」であり、複雑な生命現象は微生物から動物、植物に至るまで、全て酵素やタンパク質による分子レベルでの巧妙な制御によって成り立っています。また、酵素は生命現象だけでなく、意外に身近なところでも我々の生活に欠かせないものとして利用されています。この講義では「遺伝子からどのようにして酵素(タンパク質)が作られるのか」「酵素はどのようにして複雑な生命現象に関与しているのか」「日常生活で酵素はどのように利用されているか」などを最新の知見を交えつつ概説します。また、当日は、身の回りにある酵素に関して、簡単な実験を行っていたく予定です。</p> <p>研究室体験等：午後からは、研究室体験や附属施設の見学会、入試相談などに参加することができます。</p>		
参考書等	特に使用しません。		
受講上の注意	<p>ノートなど筆記用具を持参して下さい。</p> <p>なお、午後からは研究室体験、相談会などの催しを行います。</p>		
高校生へのメッセージ等	<p>本講座を通して、香川大学農学部での講義と学生実験の一部が体験出来ます。必ず、何か興味が持てるものが見つかるはずですよ。疑問や関心が芽生えたら何でも積極的に質問して下さい。「おもしろい!」「調べてみたい!」ことを発見する、それがサイエンスの第一歩です。</p>		

平成25年度行事予定表(昼間)

第2学期

第1学期

日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
4月	1	第1学期開始	2	3	4	5	10月	1	第2学期開始 大学記念日	2	3	4	5
	7	定期健康診断・ 新入生修学相談会	9	10	11	12	6	7	8	9	10	11	12
	14	15	16	17	18	19	13	14	15	16	17	18	19
	21	22	23	24	25	26	20	21	22	23	24	25	26
	28	29	30	1	2	3	27	28	29	30	31	1	2
5月	5	6	7	8	9	10	11月	4	大学祭 敬収日	5	6	7	8
	12	13	14	15	16	17	10	11	12	13	14	15	16
	19	20	21	22	23	24	17	18	19	20	21	22	23
	26	27	28	29	30	31	24	25	26	27	28	29	30
6月	2	3	4	5	6	7	12月	2	3	4	5	6	7
	9	10	11	12	13	14	8	9	10	11	12	13	14
	16	17	18	19	20	21	15	16	17	18	19	20	21
	23	24	25	26	27	28	22	23	24	25	26	27	28
	30	1	2	3	4	5	29	30	31	1	2	3	4
7月	7	8	9	10	11	12	1月	6	7	8	9	10	11
	14	15	16	17	18	19	12	13	14	15	16	17	18
	21	22	23	24	25	26	19	20	21	22	23	24	25
	28	29	30	31	1	2	26	27	28	29	30	31	1
8月	4	5	6	7	8	9	2月	3	4	5	6	7	8
	11	12	13	14	15	16	9	10	11	12	13	14	15
	18	19	20	21	22	23	16	17	18	19	20	21	22
	25	26	27	28	29	30	23	24	25	26	27	28	29
9月	1	2	3	4	5	6	3月	3	4	5	6	7	8
	8	9	10	11	12	13	9	10	11	12	13	14	15
	15	16	17	18	19	20	16	17	18	19	20	21	22
	22	23	24	25	26	27	23	24	25	26	27	28	29
	29	30	第1学期終了				30	31	第2学期終了				

平成25年度行事予定表（法・経済学部夜間主コース）

第1学期

第2学期

日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
4月	1 第1学期開始	2	3	4 入学式・ガイダンス (毎年4/4)	5 新生活ガイダンス	6 新入外国人留学生ガイダンス	10月	1 大学記念日	2 授業開始	3	4	5 新入外国人留学生ガイダンス	
7	8 定期健康診断・新入生修学相談会	9 授業開始	10	11	12 新生活歓迎祭	13	6	8	9	10	11	12	
14	15	16	17	18	19	20	13	15	16	17 振替授業(月)	18	19	
21	22	23	24	25	26	27	20	22	23	24	25	26	
28	29	30 振替授業(金)	1 振替授業(月)	2	3	4	27	29	30	31	1 前夜祭(臨時休業)	2	
5月	6	7	8	9 振替授業(月)	10	11	11月	4 大学祭開校日	5	6 振替授業(月)	7	8	9
12	13	14	15	16	17	18	10	11	12	13	14	15	16
19	20	21	22	23	24	25	17	18	19	20	21	22	23
26	27	28	29	30	31	1	24	25	26	27	28	29	30
6月	3	4	5	6	7	8	12月	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15	1	2	3	4	5	6	7
16	17	18	19	20	21	22	8	9	10	11	12	13	14
23	24	25	26	27	28	29	15	16	17	18	19	20	21
30	1	2	3	4	5	6	22	23	24 振替授業(月)	25 冬季休業~1/7	26	27	28
7月	8	9	10	11	12	13	29	30	31	1	2	3	4
14	15	16	17	18	19	20	5	6	7	8	9	10	11
21	22	23	24	25	26	27	12	13	14	15 振替授業(金)	16	17 金場設置(臨時休業)	18
28	29	30	31	1	2	3	19	20	21	22	23	24	25
8月	5	6 夏季休業~9/30	7	8 オープンキャンパス	9	10	26	27	28	29	30	31	1
11	12	13	14	15	16	17	2	3	4	5	6	7	8
18	19	20	21	22	23	24	9	10	11	12	13 振替試験(火)	14	15
25	26	27	28	29	30	31	16	17	18	19	20	21	22
9月	1	2	3	4	5	6	18	19	20	21	22	23	24
8	9	10	11	12	13	14	25	26	27	28	29	30	31
15	16	17	18	19	20	21	2	3	4	5	6	7	8
22	23	24	25	26	27	28	10	11	12	13	14	15	16
29	30 第1学期終了						17	18	19	20	21	22	23
							24 卒業式 (学生3/24)	25	26	27	28	29	30
							31 第2学期終了						

<< 公開授業用マップ >>

香川大学幸町キャンパス

紫雲中学校

幸町北キャンパス

運動場

第2体育館

ハンド
ボール場

弓道場

法学部・経済学部
法学部・経済学部
法学部・経済学部
法学部・経済学部

経済学部門

武道場

第1体育館

図書館

学生会館
(学生食堂)

香川大学正門

幸町南キャンパス

プール

駐車場

受講初日集合場所

研究交流棟
学務グループ

入口

教育学部門

教育学部
学務係

大学本部

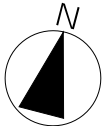
うどん店

コンビニ

バス停
幸町

高松市立図書館

← この建物の1階に
お集まりください。



高校生を対象とした公開授業及び体験授業に係る受講生・保護者連絡先

受講生氏名	
受講生電話番号	
受講生メールアドレス	
保護者氏名	
保護者連絡先	

香川大学から受講決定の通知がありましたら、受講初日にこの用紙と受講料をお持ちください。（公開授業は1科目につき2,300円。体験授業は無料。）

なお、上記の個人情報は、香川大学が高校生対象公開授業及び体験授業の実施に当たり必要な範囲において利用させていただきます。それ以外の目的に利用することはありません。